

2008年6月28日(土)開催 | 基盤教育研究分科会

計画的 OJT とは何か。そして27歳教育がキーだ

テーマ	学習モチベーション
開催日時	2008年6月28日(土) / 14:00~17:00
会場	明治大学 紫紺館
参加者	12名
講師	リアルワン株式会社 代表取締役 / 青山慎氏
ナビゲーター	堤 宇一 人材育成マネジメント研究会

※URL に画像 6 個表示されていない

■ナビゲーターコメント

こんにちは、堤宇一@人材育成マネジメント研究会です。

トピックわ談会の第1回目が終了しました。

今回は、リアルワン株式会社の青山慎氏をお招きし、学習者(研修参加者)の学習に対するモチベーションを考えていきました。青山氏が2年前に実施した調査(企業内研修の受講者221名、)を題材に、学習モチベーションはどのような要因で構成され、それぞれの要因がどう、学習へのモチベーションに影響を与えているのかなどを、ご紹介いただいた。

青山氏の調査によると、学習モチベーションは、大きく3つの因子から構成されていた。1つは、研修への興味や研修後に得られる報酬やポジションといった「教育訓練に対する期待」。次は、学習や経験への肯定感、職務に対する関与の度合い、能力開発の必要性の理解やキャリアに対する本人のこだわり、あるいは興味関心といった「個人的な特性」。そして最後は、学習提供機会の有無、失敗の許容の程度、活用に対する支援や促しの有無といった「学習者の所属する職場 環境の良好性」である。

調査結果の納得性は高く、その結果は、研修の募集に際して、参加通知案内で気を配る点、職場の巻き込み方など、我々に対して、実務上で多々留意すべき点のヒントを与えてくれる。

旧来のように、世の中全体に余裕があり、研修自体もじっくりと時間をかけて実施することが許さるなら、半日あるいは1日かけて、モチベーションの低い学習者を解きほぐし、その気にさせることが出来るかもしれないが。昨今のように、1日あるいは2日で実施し、学習効果を最大化しろという環境下では、そのようなことに時間を割くことが出来ない。

今回発表されたさまざまな知見を利用し、研修スタート時に参加者全員がトップスピードで走れるように準備しておくことは、いって重要である。それは、教育研修の投資効率を高めることにつながっていく。

次回の7/5(土)は、中村学園大学の柳澤准教授をお招きし「評価エラー」について講義をいただく。人が人を評価する際、どのような着眼点を持ち、どのような情報を収集し、どのような情報処理を行い、最終結論を導いていくのだろう。次回も興味深い話が聞けそうである。

人材育成マネジメント研究会 代表 堤宇一

開催日 2008年6月28日(土)